

フォレストニュース

植林が地球を救う

令和2年(2020)11月10日

No. 155

発行 高津啓洋

ゴールデンシャワーが満開に

ゴールデンシャワーが毎年この時期になると黄色い花を咲かせて



くれます。

街中で、この花が咲いていると大変に目立ちます。

レダも、ゴールデンシャワーが各所に植えられていて、黄色い花を見事に咲かせてくれます。マメ目マメ科ナンバンサイカチ属。

別名：ナンバンサイカチ(南蛮皂莢)と言い、インドが原産地です。この木の豆果の様子が日本原産の「サイカチ(皂莢)」に似ていることから和名を「ナンバンサイカ



ゴールデンシャワーが見事に花開く



ポーチュラカ

チ(南蛮皂莢)」と呼ばれます。熱帯アジアに多く見られ、日本には1930年代に沖縄に渡来したそうです。

園師さん帰国前の剪定



一年間、庭師をしていた園師さんが、コロナ禍、やっと移動がかない、帰国することとなり、気になる立木の剪定をしています。足場が悪く危険なために梯子を木に括り付けての剪定です。

レダに咲く野草
ポーチュラカ(Portulaca)

レダでは長い乾季が過ぎ、雨季が訪れています。

木々の緑は繁り、大地は一面の雑草に覆われます。その中には可愛い赤

い花をつけた背丈15cm程の“ポーチュラカ”やその仲間でも人気のある松葉ボタンも多く見受けられます。これらの野草は地面一面に咲き、壮観です。

ポーチュラカと松葉ボタンの大きな違いは「葉の形状」です。ポーチュラカは丸っぽく、松葉ボタンは、その名の如く細く尖っています。

ポーチュラカの「花言葉」は“いつも元気”。耐暑性があり真夏の炎天下でも可愛い花をたくさん咲かせることに由来するらしいです。因みに、松葉ボタンの原産地は南米で、日本には明治前後に渡来したようです。

(園師さんからの情報です)

2021年カレンダー配布中

植林が地球を救う

世界に広げよう植樹の輪 **2021** (令和3年) 環境保全をわたしたちの手で

【お知らせ】 2021年カレンダーを一部200円で支援者の方々に配布中です。

フォレストライター

2020年11月10日

●日本が2050年までの温室効果ガス排出量の実質ゼロ目標を宣言

菅政権が発足してから初めての臨時国会が召集され、菅義偉首相が所信表明演説を衆院本会議で行いました。（10月26日）演説の目玉としては2050年に国内の温室効

果ガス排出を実質ゼロにすると宣言したのです。

日本の政府が明確に期限を示すのは初めてのことだけに、各紙も1面トップで「温室ガス『ゼロ』で成長、所信表明、50年に実現宣言」（読売）などと大きく報じています。演説の中では「我が国は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロ。すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭

素社会の実現を目指すことを宣言する」と力説しました。

菅義偉首相は26日、成長戦略の柱として「経済と環境の好循環」を掲げ、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする所信表明演説で発表しました。

世界における脱炭素経済への移行が必須となる中、日本は、国際NGOや国内の団体などから気候変動対策の早急な転換を求められてきました。日本の転換点となり得る今回の決定は経済においても新しい形での飛躍を目指す大きな一歩となるでしょう。

●国連は日本の対応を大いに評価
国連は、日本政府が2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする方針を表明したことを歓迎し、日本が発展途上国を技術面や資金面で支援して世界の温暖化対策をけん引することに期待を示しました。

これについて国連の報道官は26日、定例の記者会見で、「事務総長はとても勇気づけられている。菅総理大臣の指導力に感謝したい」と述べて歓迎しました。

国連は、世界の平均気温の上昇を1.5度以下に抑えるには温室効果ガスの排出量を2050年までに実質ゼロにする必要があり、とりわけ先進国が発展途上国の対策を支援することが不可欠だとしています。

報道官は「日本は国連の目標達成に必要なあらゆる技術と資金を持っており、再生可能エネルギーの普及で発展途上国を助けてくれると確信している」と述べて日本が世界の温暖化対策をけん引することに期待を示しました。

そして、各国の温暖化対策について「中央政府だけでなく地方政府や市民、産業界の力を結集することが大切だとビジネスリーダーや若者らに訴えている」と述べて、社会全体で取り組むよう呼びかけました。

●温暖化対策は待ったなし

中国も今年の9月の国連演説で、2060年までには温室効果ガス排出を実質ゼロにすると宣言しました。また韓国も10月29日には温室効果ガス排出を2050年までに実質ゼロにすると宣言しました。

もし、温室効果ガスがストップできなかった場合はどうなるのでしょうか。コンピューターのシミュレーションによって分かったことは、2100年には最大で4.8℃上昇するという事です。

それを国連は、何とか上昇温度を1.5℃にとどめておきたいと呼びかけています。

もし、温暖化対策ができなかったときは、地球規模の様々な、困難が予想されています。

食糧不足の危機、水不足と砂漠化。また、海面上昇など、人類の生活に危機的状況が現れるのです。

